



SSKW

# moderato

社会福祉法人藤沢育成会

【モデラート:中くらいの速さで(音楽用語)】

## Vol.92



### 西條節子さん追悼特集号

ごあいさつ

生涯を皆さまが支えてくださり  
友情を豊かにいただき

印象深い生涯を二〇二二年二月十二日  
終えることに満足しております。

皆さまどうぞ私の靈魂が平安のうちにありますよう  
お祈りください

私も皆さまの栄光の日々を祈り続けます

マルガリータ・マリア・クララ 西條節子

ごあいさつ

社会福祉法人藤沢育成会 理事長 石川 修

オミクロン株による第六波の中、当法人にも多大な影響があり、  
入所事業やグループホーム事業で感染者対応に追われました。  
また、事業を休止しせざるを得ない事態となり、多くの皆様にご心配やご迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。  
おかげさまで本来の姿を取り戻していることをご報告申し上げます。  
ご指導、ご支援ありがとうございました。

二〇二二年度は、新たに策定した『インクルージョンプラン』  
スタートの年です。そこで、①再整備に向けた財政再構築をめ  
ざす ②アフターコロナを視野にした新型コロナウイルス対策  
の徹底 ③日常を「社会的スケール」で見つめ直す、を目標に  
しました。今後ともよろしく申し上げます。

今年二月、ご家族と共に当法人の礎を築いていただいた西條節  
子さんが逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。  
今回のモデラートは追悼特集号とさせていただきます。



## 西條節子さんを偲んで

藤沢市市長 鈴木恒夫

西條さんのご逝去の報に接し、心より哀悼の意を捧げます。

西條さんとは私の母が親しかったことから、私が小学生の頃、夏休みになると西條さんの自宅で姉や姪などと過ごしたほか、旅行で様々な場所に連れて行っていただきました。今、振り返りますと、西條さんのやさしい笑顔や一緒に過ごした穏やかな日々が、懐かしく思い出されます。

私が市議会議員であった頃には、時を同じくした時期があり、西條さんの人と人が支えあう福祉への一貫した信念に感化を受けました。その後、県議会議員、市長という立場においても、障がい福祉の観点から有意義なアドバイスをいただいたほか、藤沢育成会の諸行事にもいつも声をかけていただき、私にとっては、かけがえのない恩人でした。

西條さんへの感謝と敬愛の思いを込めて、いつまでも安らかに憩われますよう、お祈り申し上げます。

## 家族への賛歌をありがとうございました

いつわ会会長 安達昭三

あの華奢な身体のどこに、揺るぎない信念に基づく行動力が隠されているのかとつくづく感心させられる方で、いつも障がい者とその親達家族に寄り添ってくれるものでした。親達の大きな期待を負いながら市議会議員となって障がい者の日中活動の場を作る運動を皮切りに、市の障がい福祉行政の基盤を築き上げてくれました。親達の思いを基に1988年、法人化を果たした育成会は翌年開設の「湘南セシリア」を皮切りに1998年までの10年間に5カ所の施設を開設。それにちなんで名付けた家族会連合会「いつわ会」の立上げをサポートしていただきました。法人職を離れてからも親達への賛歌を惜しみなく挙げ続けてくださいました。本当にありがとうございました。どうか好きなワインでも飲みながらみんなを見守っててください。

## 西條節子さんを偲んで

藤沢障害福祉法人協議会代表・社会福祉法人藤沢ひまわり理事長  
戸高洋充

西條節子さんの訃報の連絡が2月13日入り大変驚きました。心から哀悼の意を表します。

1995年に、社会福祉法人光友会五十嵐光雄理事長(当時)と社会福祉法人藤沢育成会西條節子理事長(当時)と社会福祉法人マロニエ会伊澤潔理事長(当時)の3法人が初会合し、1996年連携して藤沢市内各地域のニーズに応えるため「藤沢障害三法人協議会」を発足し、1997年に「障害者プラン研究会」を開催し、藤沢市「障害者プラン提言」を提出しました。現在、市内の8障害社会福祉法人で「藤沢障害福祉法人協議会」として活動をしています。これも西條さんの働きかけが大きかったと思います。個人的にも西條さんに藤沢ひまわりを紹介され、現在に至っており感謝しています。

## 会員一同、感謝の祈りを捧げます

後援会「いずみ」副会長 後藤誠一

藤沢育成会の礎を築き、育成会に集う人を愛し、障がいのある方や家族に寄り添い、藤沢育成会を支えその発展にご尽力された西條節子会長とのお別れは、私たち後援会いずみの会員にとって深い悲しみにたえません。

西條会長が終生貫かれた「愛は行動なり」の理念は、法人全体に根付き、利用者へ寄り添う藤沢育成会の今日を見ることが出来ます。西條会長が一途に生きてこられた豊かな人生こそが、このまちの福祉の歴史であり藤沢育成会の歩みそのものです。それは私たちの心にいつまでも残り続けることと思います。本当に長い間、ありがとうございました。どうぞ安らかにお眠りください。ここに会員一同、西條会長の永年の功労に感謝の祈りを捧げます。

## 西條節子さんのあゆみ

1928年	1948年	1951年	1967年	1971年	1988年	1989年	1994年	1999年	2002年	2010年	2022年
長崎県に生まれる	疾病により右足関節の機能を失う 日本赤十字女子専門学校卒業	神奈川県立藤沢高等学校教諭に赴任	財団法人海外移住婦人ホーム主事就任	知的障害者の地域生活運動の先駆的役割を果たす 家族が障害者の日中活動の場を作る運動を支援 藤沢市市議会議員当選	「社会福祉法人藤沢育成会」認可を受ける	事務局長として法人運営にあたり、法人の礎を創る 「湘南セシリア自立ホーム」(現湘南セシリア)を設立	藤沢市市議会議員退任 藤沢育成会会理事長就任	NPO法人COCO湘南台理事長就任	藤沢育成会会理事長辞職	NPO法人COCO湘南台理事長辞職	逝去



▶ 本日はお集まりいただき、ありがとうございます。  
自己紹介をお願いします。  
山内「藤沢育成会専務理事の山内です。西條さんとは藤沢育成会設立の時代からともに活動してきました」  
高城「高城です。図書館で西條先生の本を偶然手にしたことがご縁で、COCO湘南台に住み始めました」  
増山「増山です。子どもの中学卒業後、星の村に通い始め、ご一緒するようになりました」



山内ミツ子氏  
藤沢育成会専務理事。藤沢育成会草創期より西條さんとともに活動し、現在に至る。

「強くて、やさしい」

▶ 西條さんのエピソードをお聞かせください。  
増山「いつもにこやかで気さくな方だったわね」  
山内「楽しい話を聞かせてくれて、ひょうきんな一面もあったわね」  
増山「料理が上手で手料理をふるまってくれてね。美味しかったわね」  
高城「にんにくチャーハン!」  
一同「そうそう(笑)」  
高城「にんにくチャーハンは得意で、お友達に宅配便を送られていました」

▶ もてなすことがお好きだったんですね。  
山内「人のためだったら何でもやれる方だったわね」  
増山「常に弱い人の立場で、人のために一生を尽くされていましたよね」  
山内「藤沢育成会の原点の星の村も西條さんがいなければ始まらなかったですね。太陽の家ができたけど、障がい重い子は入れなかった。白浜養護学校に高等部がなく、行く所がないのを『みんないらっしやい』って呼んでくれましたよね」

▶ 西條さんはどんな方だったのでしょうか。  
山内「強くてやさしい人でした。普通を超えたことを皆で一緒にやってきました」  
増山「個性的でチャーミング。西條さんがいて、すごいことができました。『できない』と否定的なことを言わなかったし、必ず『できるわよ』って。土壇場でも決してあきらめない方だったわね」  
高城「家族。西條先生とは会会う前から不思議なご縁がありました」  
山内「西條さんが力を貸してくれなかったら、今はなかったわね」  
増山「お世話になりっぱなしだったわね」



増山洋子氏  
当事者の親として、藤沢育成会の活動に携わる。

「個性的で、チャーミング」

山内「最初は、お金や建設ばかりで、とても大変だったのよね」  
増山「作業所を作ってお金がなかったわね」  
山内「西條さんは"まち"の中でという思いがあったの。湘南セシリアの土地探しも"まち"の灯りを感じられる場所を探したのよね」  
増山「本当にお世話になったわね」  
山内「湘南セシリアができた時、職員の仕事ぶりが心配で泊まりに行って、お風呂支援で裸にならないのが不思議だ、私は一緒に入ったわって(笑)心からに気にかけてくれたわね。作ってゴールじゃなく、藤沢市の障がい重い人のことを考えてたわね」  
高城「昔話をしている時は、楽しそうでした」  
山内「あの細い身体におんぶにだっこだったわね」  
増山「私たちだけではできなかった。西條さんが土台を作ってくれて、今があるんですね」  
山内「誰にでも優しく、安心して付き合える西條さんと出会えたことに本当に感謝よね」

## 西條節子さんを偲ぶ

西條節子さんと親交のあった3名にうかがいました。司会は相談支援プラザ所長小野田です。

## 「家族」



高城早苗氏  
西條さんの終の住処となった「COCO湘南台」に居住。西條さんの晩年を共に過ごされた。





草創期の様子

## ココと私

悲しんでると

“悲しまないで”と、横からそっと首を出している

“いい子だったねえ”という“あなたもね”という

“さあ お仕事終わったよ”という

“モーツァルトのソナタね”と…

“嬉しいな”とベッドの下にゆったりと眠る

一寸、寝がえりをうつと、“どうしたの？”と

首を出して心配する

寝ぼけてベッドの下のココをふんじったね、

ゴメンという

彼女は“あっ どかないで ごめんどめん”と

顔をなめる

私が変わるのにな



表紙の「ごあいさつ」と、詩「ココと私」は、西條さんご自身が亡くなったときのために生前より準備していたものです。



偲ぶ会の時の様子



## 西條さんの著書

『福祉と人権～ノーマライゼーションの旅』  
1994年

『福祉の食卓』  
1999年 みづき書房

『高齢者グループリビング【COCO 湘南台】』  
2000年 生活思想社

『在宅ターミナルケアのある暮らし』  
2007年 生活思想社

『小さな波から家族への賛歌』  
2008年 瑞木書房

『あなたの人生を盛り上げる加齢に認め印』  
2011年 生活思想社

西條節子

直筆のサイン

